

有為会から米沢有為会に

有為会の当初の役員体制は、幹事・常議員・理事（東京部理事・米沢部理事等）からなり、幹事の内の各1名が会計、編輯、庶務を担当し、他の1名が編輯並庶務を担当する体制でした。明治23年（1890）12月の臨時会で選ばれた幹事は、小林源蔵・伊東忠太・脇本鍋松・村井三雄蔵の4名です。その他、伊東祐彦など10名の常議員が選ばれました。

明治25年（1892）に会則が修正され、第1条「本会は米沢有為会と名づく」と名称が有為会から米沢有為会に変更されました。また、役員は会長1名、常議員10名、幹事4名、会計監査2名の体制となり、会長は当面は欠員とされました。

ちさか たかまさ 初代会長に千坂高雅が就任

初代会長に千坂高雅が就任したのは同31（1898）年8月で、総会において会長選挙が行われ、千坂高雅・小倉信近・芹沢まさあつ・平田東助の4候補者の中で千坂が最高の43票を獲得しました。千坂は同33年まで3年間、初代会長を務め、第2代会長の小森沢長政に引継ぎます。

第2代会長の小森沢の在任は8年間、同40年には平田東助が第3代会長に就任しました。

また、同41年4月には総裁に上杉茂憲伯爵の長男である上杉憲章が就任、不忍池の精養軒で総裁推戴式を開催、当時、内務大臣に就任していた平田会長を始めとして、70名あまりが参会し、総裁就任と米沢有為会の前途を祝しました。



初代会長 千坂高雅
(1841-1921)



第2代会長 小森沢長政
(1843-1917)